

一、次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

経験を確認する

読書を必要ないとする意見の根拠として、読書をするよりも体験することが大事だという論がある。これは、根拠のない論だ。体験することは、読書することとまったく矛盾しない。本を読む習慣を持っている人間が多くの体験をすることは、まったく難しくはない。むしろいろいろな体験をする動機づけを読書から得ることがある。

ア、藤原新也のアジア放浪の本(『印度放浪』朝日新聞社、など)を読んで、アジアを旅したくなる若者がいる。本に誘われて旅をするというのはよくあることだ。あるいは考古学の本を読み、実際に遺跡堀りのA手伝いに行く者もある。読書がきっかけとなって体験する世界は広がってくる。

①それ以上に重要なことは、読書を通じて、自分の体験の意味が確認されるということだ。本を読んでいて「自分と同じ考えの人がここにもいた」という気持ちを味わうことは多い。イ生まれも育ちも違うのに、同じ考えを持っている人に出会うと、自分の考えが肯定される気がする。自分ではほんやりとしかわからなかった自分の体験の意味が、読書によってはっきりとすることがある。「あれはこういう意味だったのか」と②腑に落ちることが、私は読書を通じてたくさんあった。

暗黙知という言葉がある。自分ではなかなか意識化できないが、意識下や身体ではわかっているという種類の知だ。言語化しにくいけれども何となくからだでわかっているような事柄は、私たちの生活には数多い。むしろそうした暗黙知や身体知が、冰山というと水面の下に巨大にあり、その冰山の一角が明確に言語化されて表面に出ている、という方がリアリティに即しているだろう。本を読むことで、この暗黙知や身体知の世界が、はつきりと浮かび上がってくる。自分では言葉にして表現しにくかった事柄が、優れた筆者の言葉によってはつきりと言語化される。こうした文章を読むと③共感を覚え、線を引きたくなる。

「自分ひとりの経験ではなかったのだ」という思いが、自分の生を勇気づける。自分をつくっていくためには、現在の自己を否定して、より高次の自分へと進んでいくことももちろん必要だが、私の実感では、自分を肯定してくれる者に出会うことによって、すっきりと次に進むことができるように思う。体験すること自体が重要なのではなく、その体験の意味をしつかりと自分自身でつかまえ、その経験を次に生かしていくことが重要なのだ。体験の意味を深め、④経験としていく。その積み重ねに、本は役立つ。優れた著者が自分と同じ経験や意見を述べてくれていると、安心して自分を肯定できる。自分に都合のいい著者ばかりを選んで読むというのは、B狭い読書の仕方のように思われるかもしれないが、読書をし始めた頃はとくに、共感を持って読める本の方が加速する。読んでみると「そうそう、自分も実はそう考えていた」と思うことがよくあるが、多くの場合、そこまで明確に考えていたわけではない。言われてみると、それまで自分も同じことを考えていたと感ずるということだ。ウ、この錯覚は問題ない。あたかも自分が書いた文章のように他の人が書いたものを読むことができるというのは、幸福なことだ。

なぜ著者はこんなにも自分と同じような感覚を持っているのだろうか、あるいは、まさにこれは自分が書いたもののようにだと感じることさえ、私の場合あった。

自分の経験と著者の経験、自分の脳と著者の脳とが混じり合ってしまう感覚。

これが読書の醍醐味だ。これは自分を見失うということではない。一度自分と他者との間に本質的な事柄を共有するというのが、

⑤アイデンティティ形成の重要なポイントだ。自分ひとりに閉じて内部に循環するだけでは、アイデンティティは形成されない。他者と本質的な部分を共有しつつ、自己の一貫性をもつ。これがアイデンティティ形成のコツだ。

読書は、自分の経験を確認しやすい行為だ。Cすでに言葉として紙の上に定着している言葉は、生まれては消えていく体験に形を与える。「自分に引きつけて読む」という読み方は、客観的とは言えないが、読書のある時期には必要なこともある。自分の生き方を肯定してくれるような著者を探し、自分自身を勇気づけていくことは、自己形成のプロセスとして有効だ。⑥危険なのは、それが一人に限定して狭くなってしまいう場合などである。何人もの著者を自分の経験を確認させてくれる人として持つことができれば、狭い思いこみも徐々に広げられていく。ある程度わかっているつもりのことでも、はつきりと文字にして表現されることで、確認をすることが出来る。認識を定着させていく上で、読書による経験の確認は、意外に⑦大きな意味を持っている。

(齋藤 孝著 『読書力』より)

問一 空白部ア～ウに当てはまる言葉を次から選んで番号で答えなさい。

- | | | | |
|--------|-------|--------|--------|
| 1 たとえば | 2 とても | 3 まったく | 4 なぜなら |
| 5 それでは | 6 しかし | 7 また | 8 だから |

問二 傍線部A、B、Cについて、品詞を答えなさい。

問三 傍線部①「それ」が指し示すことがらを答えなさい。

問四 傍線部②「^ト腑に落ちる」の意味を答えなさい。

問五 傍線部③「共感を覚え」について、本文における共感はどんなことですか。答えなさい。

問六 傍線部④「経験」について、本文における経験は、

あ

によって得られる

い

 や

う

 と考えられます。

あ

い

う

 にどんな言葉が入りますか。答えなさい。

問七 傍線部⑤「アイデンティティ」について説明しなさい。

問八 傍線部⑥「危険なのは」について

a

何が危険なのですか。また

b

その理由を答えなさい。

問九 傍線部⑦「大きな意味を持っている」について、どんな意味があるのか五十字以内で答えなさい。

二、カタカナ部分を漢字で書きなさい。(送り仮名が必要な場合もあります)

①よい香りがタダヨツテクル

②キョクタンな例

③キンタイシヤ

④ドウミヤクコウカの状態

⑤電車をノリカエル

三、傍線部の漢字の読みをカタカナで書きなさい。

①人体の生命維持

②舌根沈下

③削減効果を見込む

④自分のような境遇

⑤世界の隅々まで

四、①～⑤の対義語を書きなさい。

例 安全 (危険)

① 増加 ()

② 直接 ()

③ 現実 ()

④ 困難 ()

⑤ 延長 ()

五、敬語の表を仕上げなさい。

ことば	尊敬語	謙譲語	丁寧語
行く	いらっしゃる	まいる	行きます
言う	おっしゃる	①	言います
見る	②	③	見ます

作文問題

以下の題で四百字程度の文章を書きなさい

「癒しとは」